

令和3年度(令和2年度実施事業分)事務事業評価評価票

No. 30-001
 担当 佐々木
 内線等 7172

PDCA	事務事業名	文化財保護事業	部課等名	教育部 博物館			
P 総合計画との関係性等	政策体系	章： 第5章 育ち合い共生を進めるまち 節： 第2節 生涯学習の推進 基本施策： 3. 文化の継承と創造 単位施策： (1) 文化財の保存・伝承 個別施策： ①文化財の保護					
	根拠法令等	文化財保護法、半田市文化財保護条例、半田市文化財保存事業費補助金交付要綱					
	対象・目的	文化財の保存伝承に務めることにより、市民の文化財に対する意識向上及び地域文化の振興を図る。					
	目的を達成するための手段・活動内容	・文化財専門委員会を開催し、市内文化財の調査及び保護について検討を進める。 ・広く市民を対象とした「文化財よもやま話」を始めとする啓発事業を開催する。 ・文化財修理や伝承の経費に対する補助を行い、文化財の保護を図る。					
D 前年度の活動結果と見られた成果	活動結果	活動実績	H30年度	R1年度	R2年度	単位	
		①文化財専門委員会の開催回数	6	5	2	回	
		②山車保存伝承費補助金の支給件数	31	31	31	件	
		③無形民俗文化財伝承費補助金の支給件数	7	7	9	件	
			事業費	5,840	5,962	6,511	千円
		人件費	7,449	5,663	7,310	千円	
		総事業費	13,289	11,625	13,821	千円	
	成果	活動単位当たりのコスト	H30年度	R1年度	R2年度	単位	
		①文化財専門委員報酬	28	24	16	千円	
		②山車保存伝承費補助金	126	126	126	千円	
③無形民俗文化財伝承費補助金		90	90	90	千円		
成果指標		H30年度	R1年度	R2年度	単位		
文化財専門委員研究発表会（よもやま話）の1回あたりの参加者数	実績値	39	36	—	人		
	目標値	35	40	38			
	実績値						
	目標値						
C 課題の整理	観点別評価	必要性	有効性		効率性		
		①市の関与の妥当性	妥当	④上位施策への貢献	大きい	⑦コスト削減余地	ない
		②市民ニーズ	高い	⑤成果向上の余地	ある		
		③休廃止の影響	大きい	⑥類似事業の有無	ない	⑧受益者負担適正化余地	—
	事業の評価・課題	B					
		文化財保護事業では、「半田市文化財ガイドマップ」が平成24年度の作製から7年が経過し、その間に指定・登録された文化財が多くなったことから、最新の内容にリニューアルした。リニューアルにあたっては、市民がガイドマップを活用して文化財巡りができるよう、モデルコースを案内に盛り込むとともに、半田の文化の特色である山車を知ってもらえるよう水引幕を紹介する内容とした。「文化財よもやま話」を始めとする文化財を理解するための講座は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止せざるを得なかったが、山車展示等のホームページを改善し、各家庭でも解説を楽しめるよう取り組んだ。文化財の価値や魅力への理解、愛着は、本来は、実際に見て体感し、感動することで育まれるが、コロナの収束が見られない今日においては、ホームページの充実は今後も必要である。					
	A 課題解決のための目標	今後の事業の方向性	改善推進				
			文化財の保護には、市民が半田の文化に誇りと愛着をもち、自らが文化の担い手であることや、保存伝承の必要性について理解してもらうことが必要である。半田の発展の礎となった海運、醸造の歴史や、そこから育まれた山車祭りに代表される各種文化や文化財について、分かりやすく、親しみ易い内容の展示や講座を行うとともに、ホームページを活用した情報発信にも取り組んでいく。				
		令和3年度の目標	成果指標	目標値		単位	
			文化財専門委員研究発表会（よもやま話）の1回あたりの参加者数	38		人	